

社会資本総合整備計画事後評価書

計画の名称	立地条件を活かした工業系のまちづくり		
計画の期間	平成29年度 ～ 令和元年度 (3年間)	交付対象	海老名市
計画の目標			

海老名運動公園周辺地区 (11.8ha) は、圏央道 (都市計画道路 1・4・1 さがみ縦貫道路) 海老名インターチェンジから約500mの立地条件を活かし、高速交通体系の利用利便性を活かした工業流通産業の集積を図り、海老名市の産業・流通拠点として周辺環境と調和した良好なまちづくりを推進する。

計画の成果目標 (定量的指標)

- ・ 地区内の立地企業数を現在の3件 (H29) から、進出企業数を加え7件 (H31) に増加させる。
- ・ 地区内における工業・流通系の就業者数を現在の61人 (H29) から236人 (H31) に増加させる。

定量的指標の定義及び算定式								定量的指標の現況値及び目標値			備 考
								当初現況値 (H29当初)	中間目標値 (H30末)	最終目標値 (R1末)	
産業拠点形成に寄与する地区内への企業進出数を調査する。 ※大型街区は分割を想定し、進出企業用街区数を7区画 (既存3区画+新規4区画) と想定								3件	—	7件	
地区内の計画建設用地に進出した企業の就業者数を調査する。 ※事業計画の計画建設用地への新規就業者を想定								61人	—	236人	
全体事業費	合計 (A+B+C)	498百万円	A	498百万円	B	0百万円	C	0百万円	効果促進事業費の割合 (A (提案分) +C) / (A+B+C)		0.0%

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
	計画期間終了年度の令和元年度に実施
社会資本総合整備計画の事後評価として海老名市が実施	公表の方法
	評価完了後、市のホームページへ掲載

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業															
A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	H29	H30	R1	R2	R3	全体事業費 (百万円)	備 考
A-1	区画整理	一般	海老名市	間接	海老名運動公園周辺地区 土地区画整理組合	海老名運動公園周辺地区土地区画整理事業	土地区画整理事業 A=11.8ha	海老名市						498	
合計													498		

B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業個所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	H29	H30	R1	R2	R3	全体事業費 (百万円)	備考
合計															

C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	要素となる事業名 (事業個所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	H29	H30	R1	R2	R3	全体事業費 (百万円)	備考
合計															

番号	一体的に実施することにより期待される効果														

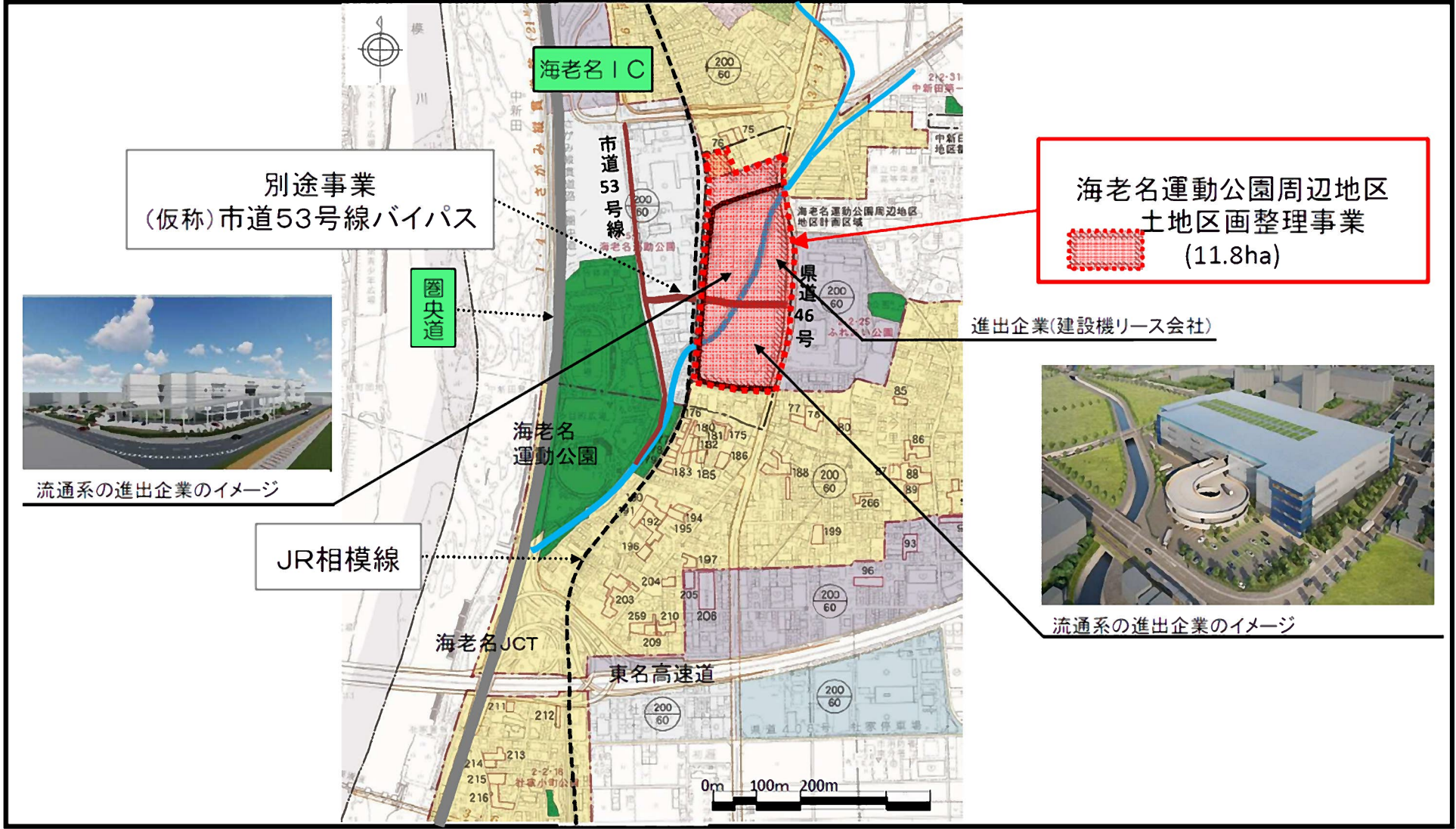
2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関する 交付対象事業の効果の発現状況		<ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業が着実に実施されたことにより、圏央道（都市計画道路1・4・1さみ縦貫道路）海老名インターチェンジから約500mの立地条件を活かして、流通系企業が2社と建設機材のリース会社の進出が決まっている。流通系の1社は令和2年3月に操業開始した。もう1社も建築工事が進み、令和2年の冬頃には操業予定である。建設機材のリース会社は未操業である。新規4件の目標に対し、実質3件の進出であるが、大型の街区が分割されなかったことから（3区画に1社が進出）、5件の進出とみなすことができ、土地利用は進んでいる。 ・現時点において、進出企業による操業は開始していないため、就業者数は進出企業の想定数である。 														
II 定量的指標の達成状況	指標①産業拠点形成に寄与する地区内への企業進出数	最終目標値	7件	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> ・目標は4件の新規企業進出であった。実質は新規3件の企業進出数であった。しかしながら、計画上3区画の敷地を一体的に1区画として1社が進出したため、計画上は新規5区画の進出とみなすことができる。よって、みなし値としては8件であり、目標は達成である。 											
		最終実績値	6件(実質) 8件(みなし値)													
	指標②地区内の計画建設用地に進出した企業の就業者数	最終目標値	236人	目標値と実績値に差が出た要因		<ul style="list-style-type: none"> ・現時点で操業していない企業もあるため、企業へのヒアリング及び単位面積あたりの従業員数から想定し算出した。みなし値は456人となり、目標は達成である。 										
		最終実績値	456人(みなし値)													
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況(必要に応じて記述)		<ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業により、道路、排水施設、雨水調整施設、公園等の都市基盤が整いつつあり、安全で快適な市街地が形成されつつある。 ・進出企業は、周辺環境へ配慮し、緑化等を進める予定である。 														
2. 特記事項(今後の方針等)																
<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の土地区画整理事業の完了に向け、着実な事業推進を図るとともに、残り3区画の企業誘致に努める。 ・また、海老名運動公園周辺地区地区計画に基づく、工業・流通系土地利用を主体とした良好な市街地形成を図る。 																

計画の名称 立地条件を活かした工業系のまちづくり

計画の期間 平成29年度 ~ 令和元年度 (3年間)

交付対象 海老名市



別途事業
(仮称)市道53号線バイパス

圏央道



JR相模線

海老名JCT

東名高速道

海老名運動公園周辺地区
土地区画整理事業
(11.8ha)

進出企業(建設機リース会社)

